



質問

木次線利活用の推進を

町長

存続を図ることを目的に活動する



常に観光客でいっぱいのトロッコ列車

糸原 壽之 議員

質問 町長所信表明の木次線利活用推進協議会の内容及び町民との連携・マスコミ対応は。

町長 活動内容は、地域資源を活用しながら沿線の地域再生、地方創生に寄与

する取り組みから、鉄道ネットワーク基盤の維持、存続を図ることを目的に活動を行う。

町長 関係者は、JR西日本をはじめ沿線の自治体、商工会、観光協会と連携し、毎月開催される協議会の

幹事会の中で連携を取り合っている。

町民との連携コミユニケーションの取り方については、広報誌により木次線に関する記事を掲載し「地域で守る木次線」と題してチラシを全戸配布した。その中で

特急やくもや新幹線の切符は木次線の各駅で買うと木次線の売り上げになることを紹介した。マスコミ対応については、今後もさまざまな情報を発信し、マスコミ利用の拡大につなげていきたい。

観光振興について

質問 町長所信表明の観光振興について、これからは、町長の言葉や行政などの印刷物やその他のものに観光を載せる際には、施設観光と同等に奥出雲の味、美味しいものがたくさんある町と表示表現されたい。

町長 食に関しては最も重要な誘客ツールのひとつであると考えている。今後は、挨拶等のなかで、言葉でも味を表現していく。

横田地域は7月7日に開催した。参加店は仁多地域26店、横田地域52店、4、579枚のチケットが販売された。参加者のうち女性が6割以上、50代60代が約半数、2、3人のグループが大半であった。また感想として、

とても良いと答えた方が6割以上、活性化に繋がると答えた方が8割以上であった。今後も商工会と企画会議を持ちながら一層の商業活性化に努めていく。

その他の質問

質問 今年度の奥出雲バルの実績と今後の考えは。

三大美肌温泉を活用した観光振興のその後の具体的な取り組みについて。

商工観光課長 今年で4回目を迎え、仁多地域は6月3日、